

2026年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2026年5月14日

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。
*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。
*IP = Industrial Process事業、VI = Visual Imaging事業、LS = Life Science事業、
PHS = Photonics Solution事業

未来は光でおもしろくなる

USHIO

ウシオ電機 代表取締役社長の朝日です。

本日はお忙しいところ、弊社「2026年3月期 決算説明会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日、ウェブサイトにて開示した資料にもとづき、決算内容をご説明します。

2025年度 通期業績実績：増収増益

- ・ 売上・利益ともに計画を上回り着地
 - 露光装置の業績寄与が遅延も、映像装置の需要が回復し貢献
 - 事業ポートフォリオ変革による収益改善が進展
 - 将来に向けた先行投資(DLT等露光装置関連)を計画通り拡大

2026年度 通期業績予想：増収増益

- ・ 露光装置の販売が増加
- ・ 構造改革の進展で収益性が改善 (主にVI事業)
- ・ OSRAM事業買収*による連結を開始(利益貢献は次年度(FY27)以降)

新成長戦略(2年目)の進捗

- ・ 事業ポートフォリオ変革の各施策及び財務戦略を計画通り遂行し、**収益基盤が強化**
- ・ 半導体アドバンスドパッケージ事業の業績貢献時期は遅延も、**商談が活発化**
- ・ ROE改善は遅延も、**PBR 1 倍超を実現**

*ams-OSRAMグループのランプ事業の買収のこと。以降同様

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 2

本日お伝えしたいことは、記載の3点です。

1点目、2025年度通期実績は増収増益となり、売上・利益ともに計画を上回って着地しました。露光装置は販売が減少したものの、映像装置の需要回復や事業ポートフォリオ変革の成果が業績に貢献しました。

2点目、2026年度の業績予想は、増収増益を計画しています。これは、露光装置の販売が増加に転じること、また、構造改革の効果が継続し発現することによるものです。

3点目、新成長戦略のPhase I は、2年目が終了しました。進捗状況は記載の通りですが、後ほど、詳しくご説明します。

それでは、まずは2025年度の業績についてご説明します。

(スライド4ページへ)

I. 2025年度 業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 新成長戦略 2年目の成果と今後の方向性について

IV. 参考資料 — ①新成長戦略関連
②決算関連

売上高 1,792億円	前年同期比： 15億円増 (+0.9%) - IP事業：過去の過剰投資の影響でステップ露光装置の販売が減少 - VI事業：映像演出ニーズが堅調に推移し映像装置の販売が増加
営業利益 119億円	前年同期比： 31億円増 (+35.5%) - 将来に向けた先行投資(DLT等露光装置関連)を拡大も、事業ポートフォリオ変革に伴う構造改革効果により増益
親会社株主に帰属する 当期純利益 79億円	前年同期比： 11億円増 (+17.6%) - 【特別利益】 投資有価証券売却益 100億円 (2024年度：95億円) - 【特別損失】 事業構造改善費用 63億円 (2024年度：57億円) 減損損失 13億円 (2024年度：11億円)
ROE	4.0% (調整後*ROE：4.6%)

*OSRAM事業買収に関わる一時費用及び2024年3月末からの評価差額金等(純資産)の増加分を除く

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved

4

2025年度の業績ですが、
 売上高は15億円の増収、
 営業利益は31億円の増益、
 当期純利益は11億円の増益となりました。

売上高は、
 露光装置の販売減少の影響があったものの、映像演出ニーズが堅調に推移し増収。

営業利益は、
 DLT等露光装置関連の先行投資を拡大させたものの、
 構造改革の取り組み効果で増益。

当期純利益は、
 事業構造改善費用や減損損失を計上したものの、
 投資有価証券売却益を計上したことにより増益となりました。

続いて、営業利益の増減内容をご説明します。

(スライド6ページへ)

2025年度：財務ハイライト

USHIO

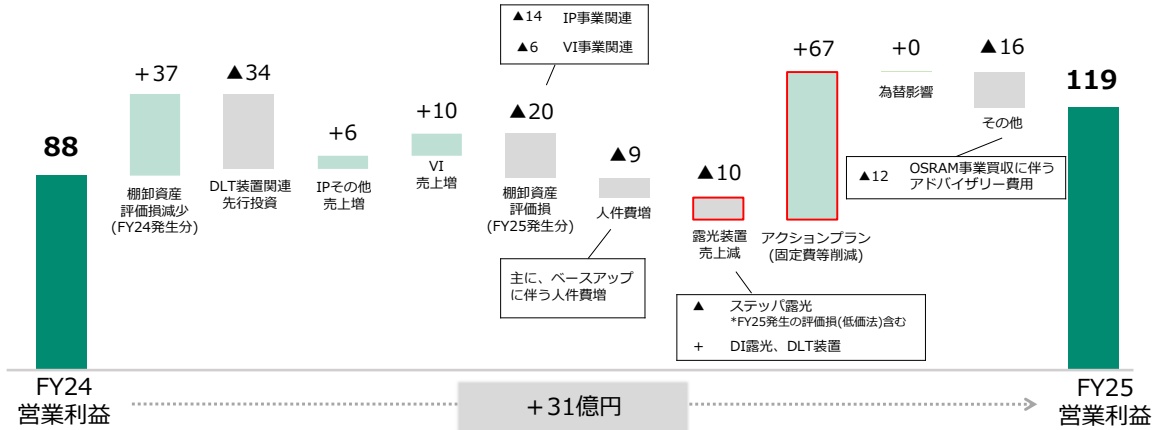
単位：億円	2024年度 実績	2025年度 実績	前年同期比		参考 前々回予想 (2026.2.6)	前回予想 (2026.3.19)	前回予想比		
			増減額	増減率			差異	達成率	
売上高	1,776	1,792	+15	+0.9%	1,700	1,750	+42	102.4%	
営業利益	88	119	+31	+35.5%	100	115	+4	104.0%	
営業利益率	5.0%	6.7%	+1.7P	-	5.9%	6.6%	+0.1P	-	
経常利益	124	133	+8	+7.2%	105	125	+8	106.8%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	79	+11	+17.6%	70	75	+4	106.6%	
EPS (円)	70.27	94.88	+24.61	+35.0%	79.45	88.09	+6.79	-	
ROE	3.1%	4.0%	+0.9P	-	3.5%	3.9%	+0.1P	-	
為替レート (円)	USD	153	150	▲3	-	146	150	-	-
	EUR	164	174	+10	-	167	174	-	-

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved

5

露光装置減収や評価損等の一時要因及び戦略投資で減益も、構造改革効果による体質改善で増益

単位：億円



営業利益31億円増益の内訳です。

露光装置の減収のほか、一時的な評価損の計上やオスラム事業買収に伴うアドバイザー費用の発生、将来に向けた先行投資の拡大が影響したものの、アクションプランを着実に実行したことで収益構造改善が進み、増益となりました。

なお、固定費の削減効果は、67億円です。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。

2025年度：セグメント別業績

	単位：億円	2024年度 実績	2025年度 実績	前年同期比		前々回予想 (2026.2.6)	予想比	
				増減額	増減率		差異	達成率
Industrial Process	売上高	789	771	▲17	▲2.3%	730	+41	105.7%
	営業利益 (営業利益率)	96 (12.2%)	64 (8.4%)	▲31 (▲3.8P)	▲32.6% -	53 (7.3%)	+11 (+1.1P)	122.4% -
Visual Imaging	売上高	808	838	+29	+3.7%	790	+48	106.2%
	営業利益 (営業利益率)	7 (0.9%)	46 (5.6%)	+39 (+4.7P)	+539.7% -	45 (5.7%)	+1 (▲0.1P)	103.7% -
Life Science	売上高	61	62	+1	+2.4%	60	+2	104.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲10 (▲17.7%)	1 (2.2%)	+12 (+19.9P)	- -	2 (3.3%)	▲0 (▲1.1P)	70.2% -
Photonics Solution	売上高	103	105	+2	+2.7%	105	+0	100.8%
	営業利益 (営業利益率)	▲4 (▲4.0%)	5 (5.3%)	+9 (+9.4P)	- -	0 (0.0%)	+5 (+5.3P)	- -
その他	売上高	13	13	▲0	▲1.8%	15	▲1	90.0%
	営業利益 (営業利益率)	0 (6.0%)	1 (13.6%)	+1 (+7.6P)	+122.8% -	0 (0.0%)	+1 (+13.6P)	- -
連結合計	売上高	1,776	1,792	+15	+0.9%	1,700	+92	105.4%
	営業利益 (営業利益率)	88 (5.0%)	119 (6.7%)	+31 (+1.7P)	+35.5% -	100 (5.9%)	+19 (+0.8P)	119.6% -

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved

7

各セグメントの業績結果及び前々回予想からの変動内容については、記載の通りです。

それぞれの要因について、次のページより説明します。

2025年度：Industrial Process事業

単位：億円	2024年度 実績	2025年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	789	771	▲17	▲2.3%
営業利益	96	64	▲31	▲32.6%
営業利益率	12.2%	8.4%	▲3.8P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	149	154	+5	+3.6% ③
OA用ランプ	60	51	▲8	▲14.3% ④
光学機器用ランプ	109	129	+19	+17.5% ⑤
光源事業合計	319	335	+15	+5.0%
露光装置	290	272	▲18	▲6.4% ①
光学装置その他	179	163	▲15	▲8.5% ②
光学装置事業合計	469	435	▲33	▲7.2%
Industrial Process事業合計	789	771	▲17	▲2.3%

■売上高：前年同期比 17億円減収

- 過去の過剰投資影響でステップ露光の販売が減少 ①
- EUVメンテナンス収入及び光配向装置の販売が減少 ②
- 円高の影響も、需要は堅調で微増収 ③
- ペーパーレス化による販売減少及び円高の影響 ④
- 半導体関連の稼働増によりサーマルプロセス等の販売が増加 ⑤

■営業利益：前年同期比 31億円減益

- 先行投資の拡大(DLT等露光装置関連_34億円計上)
- 一時的な評価損計上(露光装置等の評価損_14億円計上)

【補足】前々回予想比：売上高 +41億円、営業利益 +11億円

- 光源及び露光装置(DI)の販売が増加
- 一部事業の終息判断により評価損を特別損失で計上(4Q)

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved

8

まず、インダストリアルプロセス事業についてご説明します。

売上高は、

ステップ露光装置が過去の過剰投資の影響により販売が減少。
また、EUVメンテナンス収入や光配向装置の販売減少もあり、
17億円の減収となりました。

なお、ダイレクトイメージング露光装置は、需要増で販売が増加しました。

営業利益は、

半導体中心に稼働が高まり、光源の増加と生産効率改善があったものの、
先行投資34億円や一時的な評価損14億円の計上により、
31億円の減益となりました。

なお、ステップ露光装置中心に、足元で商談が活発化してきており、
後ほど最新の状況についてご説明いたします。

また、前々回予想に対し、

売上高及び営業利益ともに予想を上回り着地しました。

これは、光源及び一部の露光装置の販売が増加したこと。

また、一部事業の終息判断により評価損を「特別損失」で
計上したことによるものです。

2025年度：Visual Imaging事業

単位：億円	2024年度 実績	2025年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	808	838	+29	+3.7%
営業利益	7	46	+39	+539.7%
営業利益率	0.9%	5.6%	+4.7P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	105	96	▲8	▲8.4% ③
照明用ランプ	36	35	▲1	▲3.6%
光源事業合計	141	131	▲10	▲7.1%
シネマ	319	317	▲2	▲0.8% ②
一般映像	347	389	+42	+12.2% ①
映像装置事業合計	667	707	+39	+6.0%
Visual Imaging事業合計	808	838	+29	+3.7%

■売上高：前年同期比 29億円増収

- エンタメ分野の映像演出ニーズ堅調で販売が増加 ①
- 需要回復も、円高の影響で横ばい ②
- レーザープロジェクターの浸透によりランプ販売が減少 ③

■営業利益：前年同期比 39億円増益

- 棚卸資産評価損の減少(FY24：32億円、FY25：6億円)
- 構造改革効果により増益

【補足】前々回予想比：売上高 +48億円、営業利益 +1億円

- 4Qの為替レートが想定比で円安に推移
- 一時的な評価損計上(4Q)

次に、ビジュアルイメージング事業についてご説明します。

売上高は、プロジェクター用ランプが、レーザープロジェクターの浸透により販売が減少。シネマ向けプロジェクターは、需要回復により堅調に推移しましたが、円高の影響を受け横ばいとなりました。

一方、一般映像向けの映像装置は、エンターテインメント分野で映像演出ニーズが堅調に推移し、販売が増加しました。その結果、29億円の増収となりました。

営業利益は、製品ポートフォリオ見直しによる棚卸資産評価損が減少したことに加え、収益改善に向けた構造改革効果により、39億円の増益となりました。

2025年度：Life Science事業 /Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2024年度	2025年度	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	61	62	+1	+2.4%
営業利益	▲10	1	+12	-
営業利益率	▲17.7%	2.2%	+19.9P	-

■売上高：前年同期比 1億円増収

- 植物育成向けランプの販売が増加

■営業利益：前年同期比 12億円増益

- 新規案件の投資対象見極めによる収益効率改善

【補足】前々回予想比：売上高 +2億円、営業利益 ▲0億円

- 植物育成向けランプの販売が堅調も、一時的な販管費を計上

Photonics Solution事業

単位：億円	2024年度	2025年度	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	103	105	+2	+2.7%
営業利益	▲4	5	+9	-
営業利益率	▲4.0%	5.3%	+9.4P	-

■売上高：前年同期比 2億円増収

- 半導体及び産業用途向け販売が堅調

■営業利益：前年同期比 9億円増益

- 案件の選択と集中による収益効率改善

【補足】前々回予想比：売上高 +0億円、営業利益 +5億円

- 一時的な販管費の減少

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

次に、ライフサイエンス事業についてご説明します。

売上高は、植物育成向けナトリウムランプの貢献が継続し、1億円の増収となりました。

営業利益は、新規事業案件の投資対象見極めや構造改革効果により、12億円の増益となり、黒字となりました。

最後に、フォトニクスソリューション事業です。

売上高は、主に半導体向けデバイス及びモジュールの販売が堅調に推移し、2億円の増収となりました。

営業利益は、開発案件等の選択と集中による収益効率の改善で、9億円の増益となり、黒字となりました。

EUV事業の一部終息

■ 現状のEUVマスク検査用EUV光源事業を終息

- 稼働中のEUV光源は、2026年度中に稼働終了の見込み
一部2026年3月末で稼働停止
- メンテナンス収入が減少
売上高：FY26_▲15億円(▲4割)、FY27以降：終息の見込み
- 保守メンテナンス在庫の評価損(特別損失)13億円を計上(FY25_4Q)
在庫リスクを低減(一部稼働継続分を除く)

■ 今後は、新たな用途への可能性を追求

主に半導体分野の検査用途などの新規用途に特化しR&Dを継続

続いて、今後の業績に関連するトピックスを2点ご説明いたします。

まず、EUV事業の一部終息を判断しました。
現在稼働中のEUVマスク検査用EUV光源については、一部を除き、
2026年3月末で稼働を停止。
残る稼働についても、2026年度中に停止の見込みです。

これに伴い、メンテナンス収入が徐々に減少しますが、
既に開発案件の選択を進めており、利益影響は最小限に留まる見込みです。

関連する保守メンテナンス在庫については、
2026年3月期第4四半期に事業構造改善費用として計上しました。

なお、EUV光源については、半導体分野での検査用途中心に、
限定したR&Dを継続します。

ams-OSRAMグループのランプ事業の買収完了

継続的な営業利益率10%超の貢献により、強固な収益基盤構築と持続的な成長を支える

■ 概要とPL影響

- ・ 2026年3月2日に買収完了
- ・ ams-OSRAMグループ設立の新会社の株式取得、関連資産の譲受完了
- ・ 取得価額 約173億円^{*1}、取得株式数 25,001株
- ・ 買収完了に伴うPL影響

FY25(実績)	売上高：10億円、営業利益影響は軽微
FY26(見通し)	売上高：270億円、営業利益：▲5億円（一時的なPMIコスト等及びのれん償却費計上の影響）
FY27以降	連結効果(FY30までののれん償却費発生)+シナジー効果 継続的な営業利益率10%超

【補足】 PMIコスト等の一時的コスト：20億円、暫定^{**}のれん(BS)：64億円_5～10年償却

^{*1} アドバイザリー費用12億円含む

^{**} パーチェス・プライス・アロケーションは暫定の測定であり、測定期間内(2026年9月末まで)に評価の前提を更新し、最終化する予定

■ 期待するシナジー効果

- ・ 調達・生産等の効率化による収益性向上、技術シナジーによる価値創出 等

詳細は「[ウシオ、ams-OSRAMグループのランプ事業の買収完了](#)」(3月3日付)をご覧ください

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 12

続いて、オスラムのランプ事業の買収完了についてご説明します。
2026年3月2日に買収契約の各種手続きが完了しました。

これに伴い、ウシオグループに正式に加わることとなります。

2026年度は、売上高で270億円。
営業利益は、連結による増益効果があるものの、
一時的なPMIコストやのれん償却費の計上で5億円の損失を見込んでいます。

2027年度以降は、PMIコストが減少し、連結効果が高まります。
今後のシナジー効果も期待でき、
継続的な営業利益率10%超の貢献で強固な収益基盤構築に寄与します。

(スライド14ページへ)

I. 2025年度 業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 新成長戦略 2年目の成果と今後の方向性について

IV. 参考資料 — ①新成長戦略関連
②決算関連

構造改革効果の継続及び半導体関連事業の伸長により増収増益を見込む

新成長戦略Phase I の目標：ROE 8%以上は、露光装置の回復・立ち上がり遅れの影響で遅延の見込み

売上高	<ul style="list-style-type: none"> ● 2,100億円 (前年同期比 307億円増収) <ul style="list-style-type: none"> - 半導体に関連する光源及び露光装置の販売が増加(IP事業) - シネマ及び一般映像共に堅調に推移(VI事業) - OSRAM事業買収による増加 (+270億円) 	
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> ● 140億円 (前年同期比 20億円増益) <ul style="list-style-type: none"> - VI事業中心に構造改革効果が継続し貢献 - OSRAM事業買収による影響 (一時的なPMIコスト及びのれん償却費計上で▲5億円を見込む) 	
当期純利益	<ul style="list-style-type: none"> ● 105億円^{*1} (前年同期比 25億円増益) <ul style="list-style-type: none"> * 投資有価証券(政策保有株式含む)売却益の計上が想定されるものの、現時点で見積もりが困難なため予想に織り込んでおりません 	
ROE	<ul style="list-style-type: none"> ● 5.2%^{*2} (前年同期比 +1.2pt) 	<p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> *1 OSRAM事業買収に関わる一時コスト除く当期純利益：130億円 *2 調整後*ROE：7.0% * OSRAM事業買収に関わる一時費用及び2024年3月末からの評価差額金等(純資産)の増加を除く
配当額	<ul style="list-style-type: none"> ● 1株当たり70円 維持 (前年同期比 -円) 	
為替前提	<ul style="list-style-type: none"> ● USD：150円、EUR：175円 (参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.4億円 	

続いて、次期の通期業績予想をご説明いたします。

2026年度の通期業績は、増収増益の見通しです。
 売上高は、生成AI半導体の需要拡大を背景に、
 関連する露光装置や光源が徐々に増加に転じます。
 営業利益は、露光装置中心に開発投資が増加しますが、
 ビジュアルイメージング事業中心に構造改革効果が継続することで
 増益を見込んでいます。

なお、オスラム事業買収に伴う業績影響は、記載の通りです。

ROEは5.2%。一時費用と当初見込んでいなかった評価差額金等の増加を除くと
 7.0%となり、当初計画の8%以上の達成は遅れていますが、
 改善傾向にあります。
 これらの詳しい状況は後ほどご説明いたします。

なお、露光装置については、
 足元でステップ露光装置中心に商談が活発化してきています。
 業績への本格的な貢献は2027年度からを想定しています。

また、地政学的な影響による部材の調達難やコスト高騰なども懸念がされますが、
 まだ不確定な要素も多く、判明している一部影響のみ反映しました。
 引き続き、動向を注視しつつ、都度適切な対応を行うことで
 リスクを低減していく考えです。

続いて、営業利益の増減内容についてご説明します。

(スライド16ページへ)

2026年度 通期業績予想：財務ハイライト

USHIO

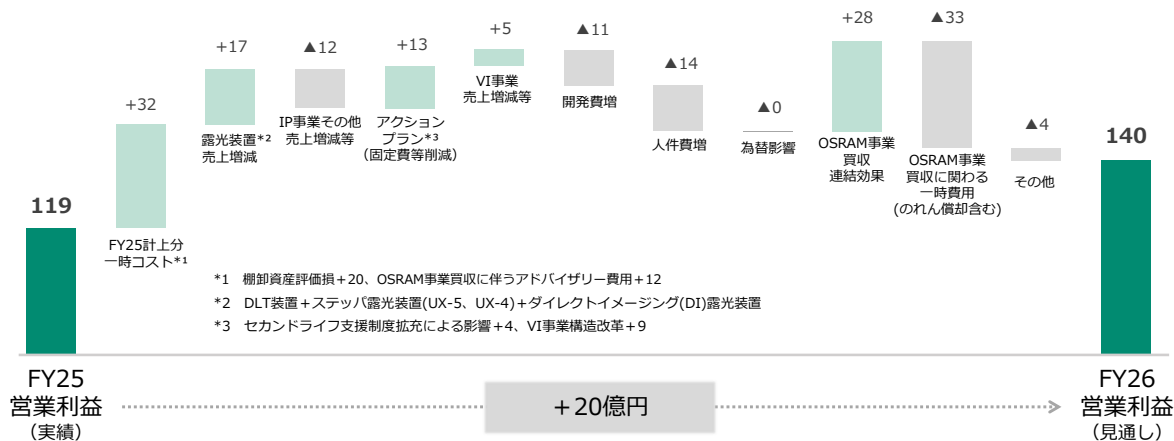
単位：億円	2025年度 実績	2026年度 予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,792	2,100	+307	+17.2%
営業利益	119	140	+20	+17.1%
営業利益率	6.7%	6.7%	▲0.0P	-
経常利益	133	140	+6	+4.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	79	105	+25	+31.3%
EPS (円)	94.88	132.27	+37.38	+39.4%
ROE	4.0%	5.2%	+1.2P	-
年間配当 (円)	70	70	-	-
為替レート (円)	USD	150	-	-
	EUR	174	+1	-

(参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.4億円

*中国による輸出規制や中東情勢の影響については、現時点で判明している影響を業績予想に反映しております。一方、原材料価格や輸出コストの高騰など、今後の長期的な影響は不確定要素が多く、予想に織り込んでおりません。引き続き関連動向を注視し、必要に応じて適切に対応してまいります。

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 15

2026年度 通期業績予想：営業利益 増減分析(前年同期比)



Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 16

営業利益20億円増益の内訳です。

露光装置を中心とした開発費11億円や人件費14億円の増加。
 また、インダストリアルプロセス事業で、
 EUVメンテナンス収入減少や一部部材コストの増加による減益影響を
 見込んでいます。

一方で、2025年度発生の一時コストの減少32億円。
 露光装置が増収に転じる効果で17億円。
 構造改革効果が継続し13億円の増益効果を見込んでいます。
 その結果、20億円の増益を見込んでいます。

2026年度 通期業績予想：セグメント別

	単位：億円	2025年度 実績	2026年度 予想	前年同期比		
				増減額	増減率	
Industrial Process	売上高	771	925	+153	+19.9%	■ Industrial Process事業 ・ 半導体ADP向け露光装置の販売が増加(スライド40参照) ・ 半導体関連の光源事業は緩やかに伸長 ・ EUVやキュア関連の販売は減少 ・ OSRAM事業買収の影響 (売上高+121億円、営業利益はプラス)
	営業利益 (営業利益率)	64 (8.4%)	75 (8.1%)	+10 (▲0.3P)	+15.6% -	
Visual Imaging	売上高	838	965	+126	+15.0%	■ Visual Imaging事業 ・ 構造改革効果が継続し増益に貢献 ・ シネマ及び一般映像需要は堅調(スライド42~43参照) ・ OSRAM事業買収の影響 (売上高+116億円、営業利益はマイナス) 買収影響除けば、営業利益率8%達成の見込み
	営業利益 (営業利益率)	46 (5.6%)	60 (6.2%)	+13 (+0.7P)	+28.5% -	
Life Science	売上高	62	90	+27	+43.9%	■ Life Science事業 ・ 構造改革効果継続で黒字維持。需要は堅調 ・ OSRAM事業買収の影響 (売上高+27億円、営業利益は軽微)
	営業利益 (営業利益率)	1 (2.2%)	1 (1.1%)	▲0 (▲1.1P)	▲28.8% -	
Photonics Solution	売上高	105	105	▲0	▲0.8%	■ Photonics Solution事業 ・ 構造改革効果継続で黒字維持。需要は堅調 ・ OSRAM事業買収の影響 (売上高+6億円、営業利益は軽微)
	営業利益 (営業利益率)	5 (5.3%)	5 (4.8%)	▲0 (▲0.6P)	▲11.4% -	
その他	売上高	13	15	+1	+11.1%	
	営業利益 (営業利益率)	1 (13.6%)	▲1 (▲6.7%)	▲2 (▲20.3P)	- -	
連結合計	売上高	1,792	2,100	+307	+17.2%	
	営業利益 (営業利益率)	119 (6.7%)	140 (6.7%)	+20 (▲0.0P)	+17.1% -	

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 17

セグメント別業績予想は記載の通りです。

インダストリアルプロセス事業は、EUV等の売上は減少しますが、半導体アドバンスドパッケージ事業関連の露光装置や半導体関連の光源が緩やかに増加する見込みです。その結果、増収増益を見込んでいます。

ビジュアルイメージング事業は、シネマ及び一般映像の需要が堅調に推移することに加え、前期に実施した構造改革効果が継続し発現することで収益性が改善。その結果、増収増益を見込んでいます。

ライフサイエンス及びフォトニクスソリューション事業は共に、買収影響を除けば売上はほぼ横ばいで推移し、かつ黒字を維持していく見込みです。

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

新成長戦略の方針：
FY24～FY26:下限配当70円/年を設定

2026年度 **70円/年（予定）**

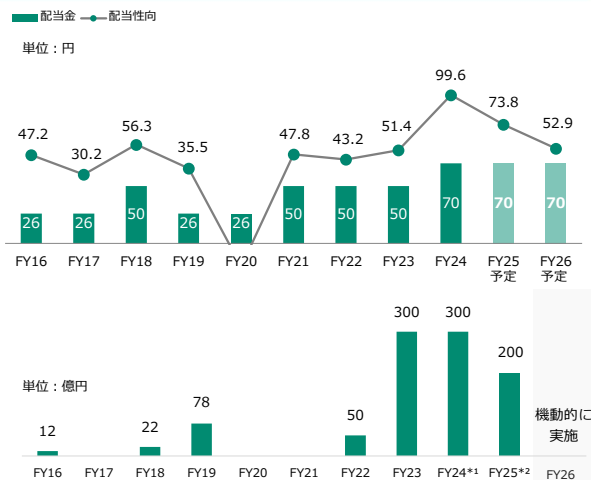
【自己株式取得の方針】

機動的に実施

新成長戦略の方針：
FY24～FY26で累計500～600億円の
自社株投資を実施予定

2026年度
機動的に実施

自社株投資



*1 2025年4月4日取得分まで含む
*2 2026年4月28日取得分まで含む

続いて、株主還元についてご説明します。

2025年度の配当は、期初から変更なく、1株当たり70円。
2026年度も新成長戦略の方針に則り、70円を維持する予定です。

自社株投資は、新成長戦略に掲げた方針通り、
2024～25年度で500億円を実施しました。
2026年度は、機動的に実施を検討していく考えです。

以上で、2025年度業績及び2026年度業績予想の説明を終わります。

I. 2025年度 業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 新成長戦略 2年目の成果と今後の方向性について

IV. 参考資料 — ①新成長戦略関連

②決算関連

続いて、新成長戦略Phase I の2年目の成果と今後の方向性について、ご説明します。

【総括】

- ・ **PBR 1 倍超を実現**
- ・ **筋肉質な体質へ** (収益構造改善及び財務戦略の進展)
- ・ **半導体アドバンスドパッケージ事業の立ち上がり・回復が遅延** (今後の着実な業績貢献を目指す)

■ 成果

- ・ **事業ポートフォリオ変革の進展** (構造改革の実施、OSRAM事業買収、事業譲渡 等)
- ・ **構造改革の実行と期初計画を上回る成果** (固定費削減効果額: 57億円 → 67億円 +10億円)
- ・ **半導体アドバンスドパッケージ事業の商談が活発化**
- ・ **自社株投資・配当を計画通り実施。純資産を圧縮** (純資産 2024.3末: 2,369億円 → 2026.3末: 1,840億円^{*1})
- ・ **政策保有株式等の有価証券売却を方針通り実施** (政策保有株式 2024.3末: 11銘柄 → 2026.3末: 6銘柄 ▲5銘柄)

^{*1} 「その他有価証券評価差額金」の含み益及び「為替換算調整勘定」の増加分を除く

■ 継続課題

- ・ 半導体アドバンスドパッケージ事業の本格立ち上がり・回復が遅延 (DLT装置の売上計上が先送り)
- ・ ROE改善も、**8%以上の早期達成を目指す(FY26 調整後^{*2} ROE予想 7.0%)**

^{*2} OSRAM事業買収に関わる一時費用及び2024年3月末からの評価差額金等(純資産)の増加を除く

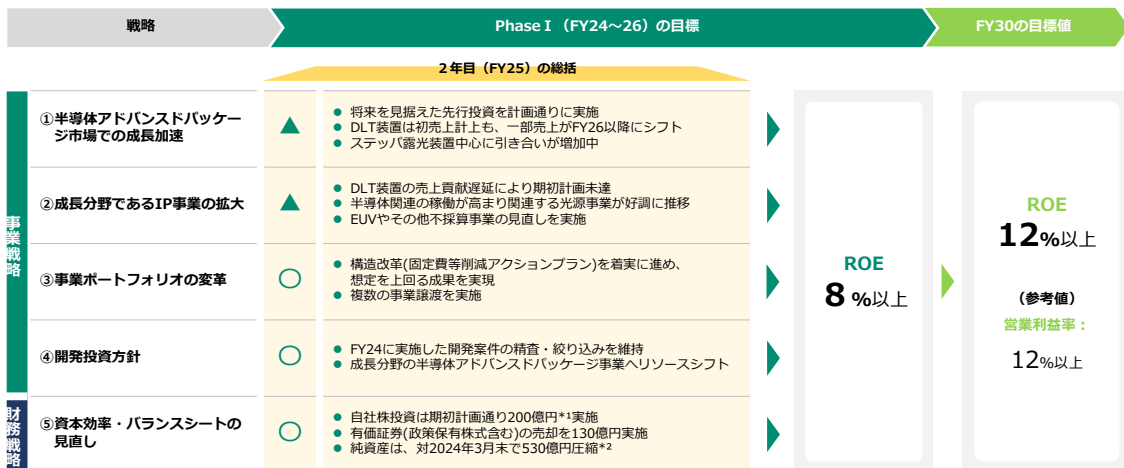
Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 20

総括しますと、
 今後の成長ドライバーと位置付けている
 半導体アドバンスドパッケージ事業については、
 計画より露光装置の立ち上がり及び回復が遅れています。
 一方で、事業ポートフォリオ変革に伴う構造改革等の取り組みや
 財務戦略については、
 計画通り着実に進めており、その成果が発現してきています。

その結果、収益構造や財務体質は筋肉質に変化しつつあり、
 PBRは1倍超えを実現することができました。

一方で、ROEは改善傾向ですが、
 主に半導体アドバンスドパッケージ事業の業績貢献遅れにより、
 8%以上の達成は遅れています。

露光装置の立ち上がり・回復遅延も、事業ポートフォリオ変革(構造改革)や財務戦略の各施策を着実に遂行



*1 2026年4月28日取得分まで含む

*2 「その他有価証券評価差額金」の含み益及び「為替換算調整勘定」の増加分を除く

新成長戦略のスタート時点で掲げた「事業戦略」及び「財務戦略」の各施策の進捗評価については、記載の通りです。

次ページより、各施策の具体的な進捗及び今後の方向性をご説明します。

①半導体アドバンスドパッケージ市場での成長加速(1)

FY25
進展状況

- DLT装置の初出荷、初売上計上
- 将来に向けた先行投資を計画通り実施
- FY27以降の業績貢献に向け引き合いが増加中

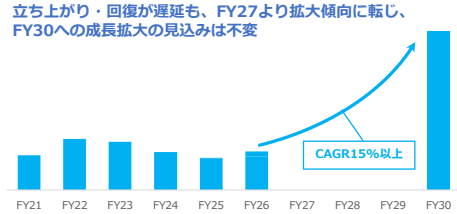
現状認識

- ◆ 生成AI半導体パッケージ基板は、既存技術の伸長に加え、新技術の立ち上がりも加わり、当社を取り巻く需要は拡大局面へ
- ◆ FY27以降の本格的な立ち上がり・回復へ機運の高まりを再確認

半導体アドバンスドパッケージ関連装置の最新の受注・引き合い状況は次ページ参照

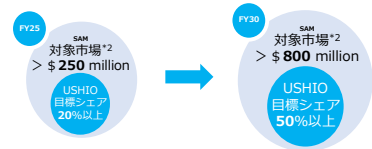
半導体アドバンスドパッケージ関連装置*1の売上高推移

*1 DLT装置 + ステッパ露光装置 (UX-5) + DI露光装置



半導体アドバンスドパッケージ市場

*2 SAMは、主にインターポーザー基板を中心とした市場



「半導体アドバンスドパッケージ市場の成長加速」ですが、2025年度でDLT装置の初出荷や売上が計上されるなどの進展はあったものの、全体的には、業績貢献が遅れています。

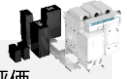
ただし、2030年に向けた大きな方向性に変化はなく、かつ、足元で商談が活発化してきています。

①半導体アドバンスドパッケージ市場での成長加速(2)

受注、引き合いの最新状況

■ DLT装置：今後の拡大を見据え、体制を一層強化

- ・ 大判化技術中心に、多くの潜在顧客による評価が継続
- ・ 次世代パッケージ基板技術に対し、マスクレス方式による柔軟性や補正能力による歩留まり向上を高く評価
- ・ 受注及び引き合いは、大判化技術検討の各メーカー*が中心 *半導体メーカー、OSAT及び主要な基板メーカー等
- ・ 当面は、研究開発やプロトタイプラインでの採用が中心。量産目的はFY28以降を想定
- ・ 業績貢献は、FY26は限定的もFY27以降に拡大



■ ステップパ露光装置(UX-5)：引き合い急増中で、生産能力拡大を決定

- ・ 生成AI向けGPUの需要に加え、ASICの需要拡大(EMIB-Tや2.1D等の新パッケージ技術の進展)
- ・ ASIC化に伴い、一部インターポーザー用途も取り込み、サブストレート基板の需要が拡大
- ・ ステップパ露光装置の量産安定性を重視する顧客からの引き合い増加
- ・ 引き合い急増の業績貢献は、FY27以降を想定



■ ダイレクトイメージング(DI)露光装置：足元の需要拡大に、生産能力拡大で対応

- ・ 生成AI需要に伴うAIサーバーやAIインフラ関連の投資が急増。DI露光装置ニーズが増加中
- ・ 足元の需要拡大に対し生産能力拡大で対応
- ・ 先端パッケージ基板向けは、ニーズを見定めつつ次世代機開発を継続



Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 23

各主要製品の最新状況についてご説明します。

DLT装置は、多くのお客様での評価が継続しており、2027年度から本格立ち上がりに転ずると見えています。

ステップパ露光装置については、引き合いが急増してきており、生産能力を拡大して対応していきます。
背景は、従来の汎用GPUの需要に加え、特定用途に最適化されたASICも拡大し、旺盛な需要拡大局面を迎えていることです。
これらの投資の中心はサブストレート基板となり、ステップパ露光装置の量産安定性が再認識されている状況です。

ダイレクトイメージング露光装置については、足元で生成AI半導体需要に伴うAIインフラ関連の投資が急増しており、関連する基板需要が増加しています。
ステップパ露光装置同様、生産能力を拡大し対応していきます。

このように引き合いが増加傾向にあり、これらの本格的な業績貢献は2027年度からを想定していますが、着実にこれらの引き合いを取り込むとともに、生産能力拡大で対応していきます。

②成長分野であるIP事業の拡大

今後の
方向性**2030目標：営業利益率18～20%** (FY25営業利益率：8.4%)FY25
進捗

- 将来の成長投資を計画通り実施 (露光装置等)
- OSRAM事業買収による光源事業の基盤強化
- 現在のEUV事業の一部終息を判断
- 不採算事業を順次見直し (事業譲渡等を実施)


Phase IIの事業成長及び収益拡大に向けた基盤強化が進展
今後の
見通し

- ◆ 露光装置の成長拡大が主要な成長ドライバー (スライド22～23参照)
- ◆ 半導体需要拡大に伴い関連光源製品*が伸長の見込み
*主に露光用ランプ、サーマルプロセス用光源、半導体市場向けのエキシマ光源など
- ◆ OSRAM事業買収による連結効果(シナジー効果含む)が貢献し事業基盤が強化

インダストリアルプロセス事業の成長拡大ですが、
オスラム事業の買収やEUV事業の終息判断、
キュア事業の譲渡を含む不採算事業の見直しなどを進め、
収益基盤を更に強固なものへと進展させることができました。

今後は、露光装置の成長拡大に加え、
堅調な半導体関連製品の需要をしっかりと取り込むこと。
また、オスラム事業の買収によるシナジー効果により、
更なる成長拡大を目指してまいります。

③事業ポートフォリオの変革(1)

(1) 構造改革の成果 (固定費削減額) : **+80億円** 期初想定: 73億円(+7億円)

収益構造の改善に向けた固定費等削減アクションプランを着実に実施。想定を上回る成果の発現を見込む

		最新実績・見通し	固定費削減額	うち、FY25	うち、FY26
固定費等削減アクションプラン			80億円	67億円	13億円
		期初想定			
FY25~26 収益改善策	課題事業 収益改善策	Industrial Process事業	9億円	9億円	-
		◆ EUV開発投資の抑制			
		Visual Imaging事業	34億円	24億円	10億円
		◆ 拠点の統廃合や縮小及び組織運営の見直し			
	全社での 取り組み	Photonics Solution事業	4億円	3億円	1億円
		◆ 開発案件の見直し			
		Life Science事業	4億円	3億円	1億円
	◆ 案件のモニタリング強化とリソース適正化				
	◆ セカンドライフ支援制度拡充による固定費削減	22億円	18億円	4億円	
	◆ 事業成長促進のため経営体制を再編	-	-	-	
		合計	73億円	57億円	16億円

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 25

構造改革の成果ですが、
 期初に掲げたアクションプランを着実に遂行してきました。
 その結果、当初計画を上回る効果が発現。
 2026年度も、計画通りその効果が継続する見込みです。
 これらの取り組みが、今後の成長拡大を支える収益基盤の強化につながっています。

③事業ポートフォリオの変革(2)

(2) 事業譲渡の実施(FY25)

- 大豆育成事業 LS
- Pandoras Box®製品ライン VI
- マイクロ流路事業 LS
- UV-LED事業及びユニキュア アフターサービス事業 IP
- 半導体レーザーデバイス事業(新規) PHS



今後も事業収益改善を目的とした検討を継続

【成果】

- 売上総利益率 : 2 pt向上 (FY23_36% → FY25_38%)
- 売上高販管費率 : 30%を維持

詳細はスライド32参照

Topics PHS

■半導体レーザーデバイス事業の京セラへの譲渡を決定

【目的】

光技術を基盤に半導体レーザーデバイス事業を展開も、市場変化を踏まえ京セラへの譲渡を決定。新成長戦略に基づき資本効率向上と事業ポートフォリオ最適化を図る

【概要】

新設会社を設立後、全株式を譲渡(2027年4月予定)

詳細は「[当社半導体レーザーデバイス事業の新設子会社への会社分割による承継及び新設子会社の株式の譲渡に関するお知らせ](#)」(4月14日付)をご覧ください

また、複数の事業譲渡を実施しています。

既に第3四半期でもご説明しましたが、

新たに半導体レーザーデバイス事業の事業譲渡を決定しました。

これは、フォトニクスソリューション事業の将来の収益構造改善に資するものです。

詳しくは、4月14日付のリリースをご確認ください。

これらの取り組み成果として、将来に向けた先行投資を実施しつつ、

売上総利益率は向上。

また、販管費率についても、しっかりとコントロールすることができています。

④開発投資方針

FY25に取捨選択した開発投資計画の案件モニタリングを強化し、今後の成長拡大を着実なものとする

単位：億円		開発投資 内訳 累積開発投資 (FY24-26)				見直し内容と今後の方向性		
		当初計画		精査後の最新見直し			削減額	
IP Industrial Process	280	露光装置	150	255	露光装置	165	▲25	<ul style="list-style-type: none"> • 将来の成長に向け次世代露光装置開発中心に継続 • 基礎・要素技術開発に特化 • 成長可能性ある光プロセス(サーマルやエキシマ)及び半導体検査用光源などに投資を集中
		EUV	60		EUV	27		
		その他	70		その他	62		
VI Visual Imaging	120			97			▲23	<ul style="list-style-type: none"> • 開発案件をハイエンド機種に集中
LS Life Science	85			28			▲57	<ul style="list-style-type: none"> • 新規事業創出案件の選択と集中を実施 • 案件のモニタリングを強化
PHS Photonics Solution	35			29			▲6	<ul style="list-style-type: none"> • 投資案件の選択と集中
OSRAM事業買収による増加				8			+8	
合計		520		417			▲103	

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 27

開発費については、前期に大きく見直した内容を継続し、引き続き、案件のモニタリング強化を行い、将来の事業成長につなげてまいります。

⑤資本効率・バランスシートの見直し

FY26のROE 8%以上は達成遅延の見込みも、財務戦略は計画通り遂行。早期にROE 8%以上達成を目指す

【財務戦略】 詳細はスライド34参照

計画通り実施

- 自社株投資：500億円の取得を完遂 方針 Phase I (FY24-26)で500~600億円
- 配当：下限配当70円の方針通り実施

参考：2026年度末純資産目標：1,800~1,900億円に対し、2025年度末実績：1,840億円*1

*1 「その他有価証券評価差額金」の含み益及び「為替換算調整」の増加分を除く

【バランスシートマネジメント】 詳細はスライド35、36参照

計画通り推進

- 投資有価証券：縮減の方針に則り売却を実施
売却額*2：291億円実施 (FY24~25) 方針 Phase I (FY24-26)で350億円売却
*2 キャッシュフローベース
- 棚卸資産：棚卸資産回転率が改善
棚卸資産 2024/3末：920億円_5.9カ月 → 2026/3末：786億円_5.2カ月 ▲0.7カ月改善

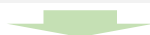
Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 28

最後に資本効率及びバランスシートの見直しの進捗です。

新成長戦略Phase I の最終年度の目標として掲げたROE 8%以上達成は遅延する見込みですが、財務戦略やバランスシートマネジメントは、計画通り実施してきました。株主還元は方針通りに実施。バランスシートマネジメントも、方針通り投資有価証券の縮減を進め、また、棚卸資産回転率も改善しました。

FY26の位置づけ：事業ポートフォリオ変革や財務戦略の一定の目途と成果。Phase IIへの移行準備

- IP事業中心にPhase II (FY27~30)に向け開発投資を加速
- Phase IIでの事業成長に向けた筋肉質な体質改善に目途
- 資本効率向上に資する財務戦略の完遂
- ROE 8%以上達成遅延も、早期達成を目指す



Phase II (FY27~30)の方向性：事業成長による更なる企業価値向上を実現

*新成長戦略策定時(2024年5月公表時)の基本方針に変更なし

ROE 8%以上の早期実現 及び 2030年目標のROE12%の達成

- IP事業の成長拡大(2030年営業利益率18~20%を目指す)
- VI事業、PHS事業は安定収益基盤化(2030年目標：営業利益率10%以上)
- LS事業による新たな企業価値創出
- 成長投資は継続しつつ、機動的な自社株投資と安定配当により自己資本をコントロール
- バランスシートマネジメントの強化(政策保有株式の2030年ゼロ方針等)

Phase IIの詳細については、2026年度通期決算時(2027年5月予定)に改めて説明予定

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 29

これらの取り組み成果をもとに、
2026年度は、事業ポートフォリオ変革や財務戦略の一定の目途と成果を目指し、
Phase IIへの移行がスムーズに行えるよう進めてまいります。

Phase IIでは、
Phase Iでの収益構造の改善効果や財務戦略遂行による
資本効率向上への取り組み成果を活かし、
まずはROE 8%以上を早期に実現するとともに、
2030年度に向けた事業の成長を着実に成し遂げ、
企業価値を向上させてまいります。

以上で、私からの説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

- I. 2025年度 業績概要
- II. 2026年度 通期業績予想
- III. 新成長戦略 2年目の成果と今後の方向性について
- IV. 参考資料 — ①新成長戦略関連
②決算関連

セグメント別係数予想(参考値)

セグメント	Phase I 単位：億円											
	FY2024実績			FY2025実績			FY2026見通し			参考 FY2026 (当初計画)		
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
IP	789	96	12.2%	771	64	8.4%	925	75	8.1%	1,050	150	14%
VI	808	7	0.9%	838	46	5.6%	965	60	6.2%	700	55	8%
LS	61	▲10	▲17.7%	62	1	2.2%	90	1	1.1%	70	▲5	▲7%
PHS	103	▲4	▲4.0%	105	5	5.3%	105	5	4.8%	120	3	3%
連結合計*	1,776	88	5.0%	1,792	119	6.7%	2,100	140	6.7%	1,950	200	10%

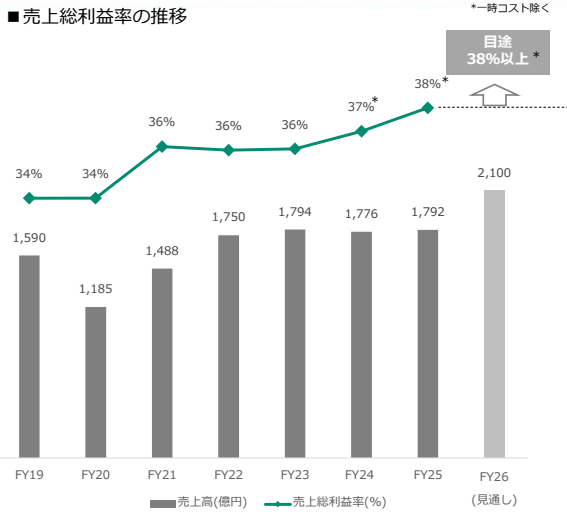
FY2030
目指したい姿

(参考値)
営業利益率：12%以上
 (売上高：2,000~2,500億円)
 ↑
 IP事業を柱とした事業ポートフォリオへ
 (IP事業：営業利益率18~20%を目指す)
 +
 新規事業 (LS事業を含む) を育成
 +
 VI・PHSは安定したキャッシュを生み出す事業へ
 (将来的に営業利益率12%以上を目指す)

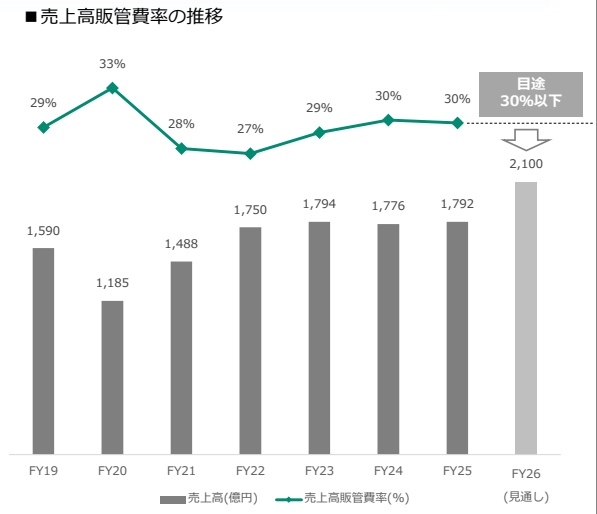
* 連結合計には「その他」セグメントも含む

売上高総利益率及び販管費率の推移

■ 売上総利益率の推移

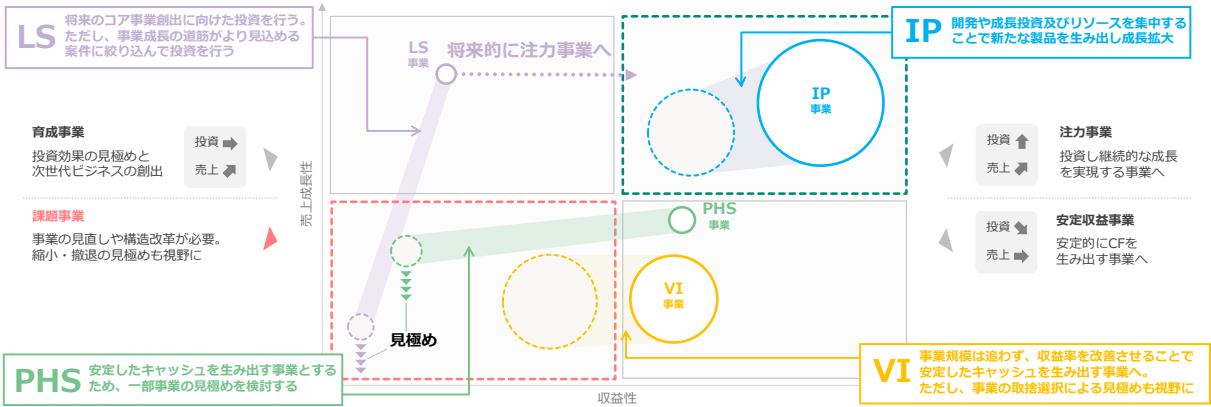


■ 売上高販管費率の推移



不採算事業のてこ入れと事業ポートフォリオの変革(再掲)

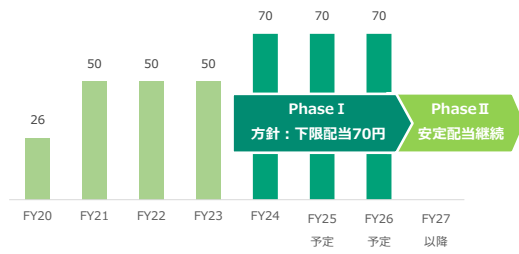
○…現在 ○…2030年の目指す姿



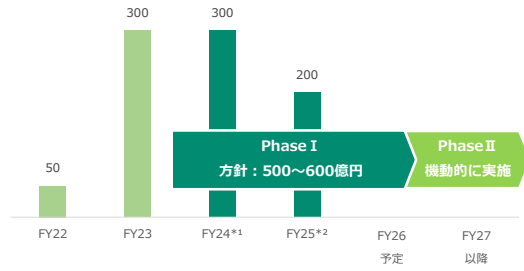
資本効率・バランスシートの見直し

配当方針 (単位：円)

1株当たりの配当額推移見込み



自社株投資 (単位：億円)



*1 2025年4月4日取得分まで含む
 *2 2026年4月28日取得分まで含む

資本効率・バランスシートの見直し

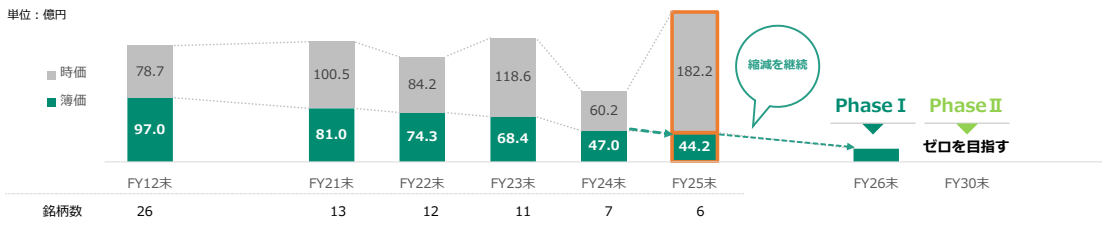
有価証券*売却予定スケジュール (キャッシュフローベース)



* 政策保有株式、長期債券及び純投資株式

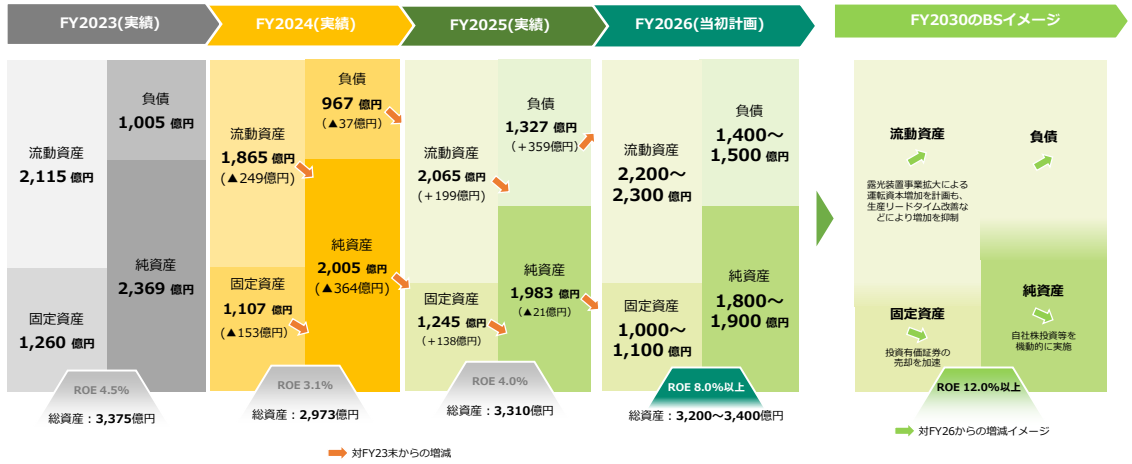
政策保有株式縮減方針

方針に則り、政策保有株式の縮減を実施



資本効率・バランスシートの見直し

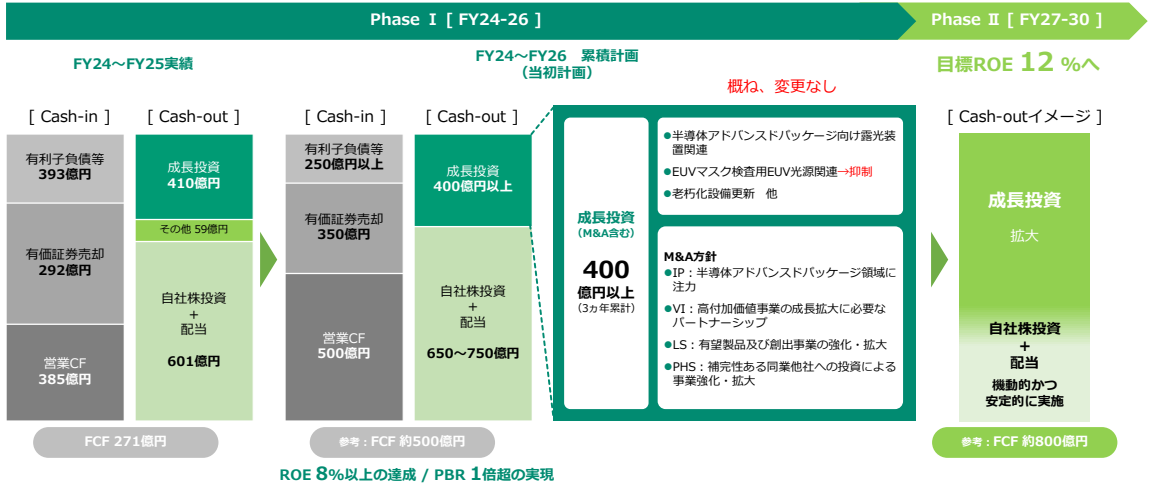
BSマネジメント方針



資本効率・バランスシートの見直し

	FY2023 (実績)	FY2024 (実績)	FY2025 (実績)	FY2026 (見通し)	参考：FY2026 (当初計画)	ROE向上実現に向けた施策
ROE	4.5 %	3.1 %	4.0 % (調整後：4.6%)	5.2 % (調整後：7.0%)	8 %以上	FY2030 : 12 %以上
変更なし						
売上高純利益率 当期純利益÷売上高	6.0 %	3.8 %	4.5 %	5.0 %	約 8 %	<ul style="list-style-type: none"> ● ポートフォリオ変革を踏まえた新成長戦略の各施策を着実に実施することで売上高純利益率を向上 ● 半導体アドバンスドパッケージ事業の拡大による運転資本の増加を計画も、露光装置中心とした生産リードタイム改善などにより資産圧縮を進める ● 有価証券の売却加速により金融資産を事業資産/株主還元へ振替 ● Phase I：資本最適化*のため自社株投資拡大や下限配当設定による株主還元を拡大(*自己資本は2,000億円以下を維持) ● Phase II：機動的な自社株投資を計画 ● 財務レバレッジ向上のため有利子負債を活用
総資産回転率 売上高÷総資産	0.53 回	0.56 回	0.57 回	0.64 回	約 0.6 回	
財務レバレッジ 総資産÷自己資本	1.42 倍	1.45 倍	1.58 倍	1.67 倍	約 1.7 倍	

キャッシュアロケーション



- I. 2025年度 業績概要
 - II. 2026年度 通期業績予想
 - III. 新成長戦略 2年目の成果と今後の方向性について
 - IV. 参考資料 — ①新成長戦略関連
- ②決算関連

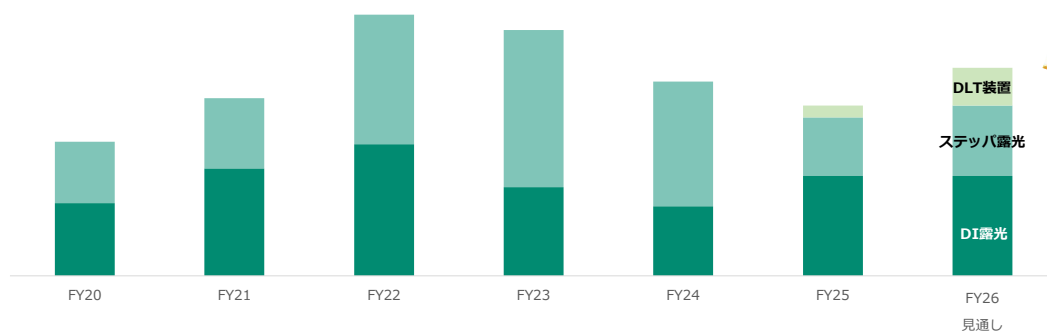
Industrial Process事業に関わる参考情報

■半導体アドバンスドパッケージに関連する露光装置*

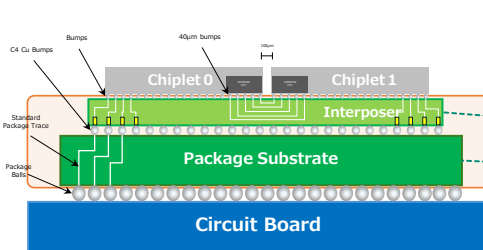
* DLT装置 + ステツパ露光装置(UX-5) + ダイレクトイメージング(DI)露光装置

【参考情報(売上高推移イメージ)】

本格的な
立ち上がり・回復による
業績貢献は
FY27以降を想定

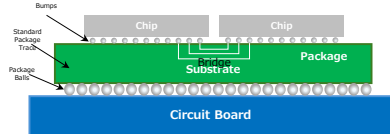


生成AIに求められる次世代パッケージ構造とウシオの製品ラインアップ

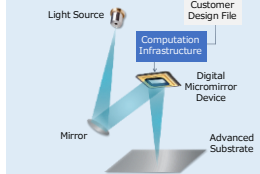


	求められる解像度 (L/S)	今後の技術トレンド
前工程	数nm	チップレット化
後工程	サブµ~2µm	有機化、大物化 パネル化
	5~10µm	ガラスコーティング 高解像度
	30~100µm	

参考：従来型の半導体先端パッケージ(イメージ図)

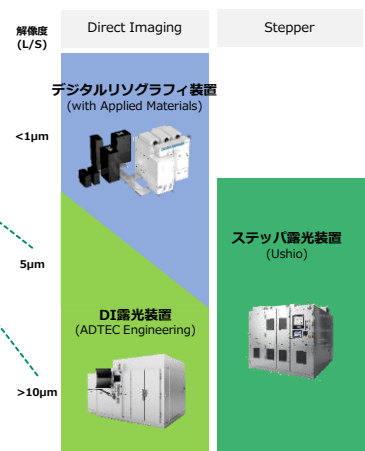


デジタルリソグラフィ装置(イメージ図)



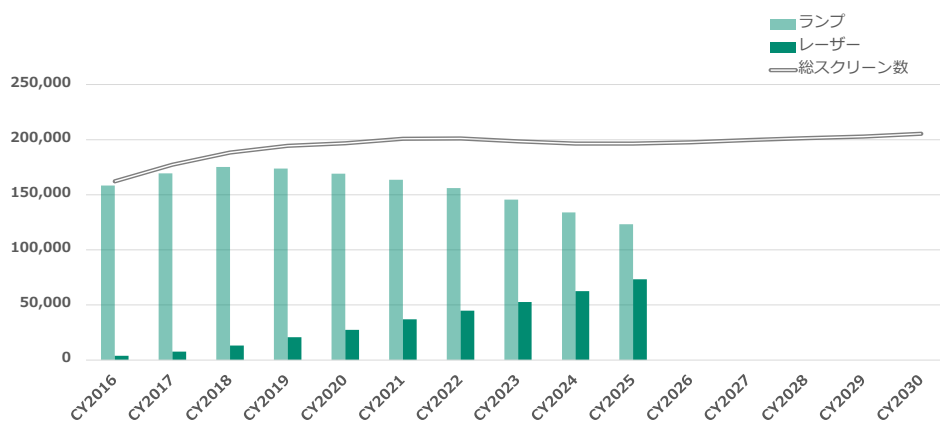
- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【特徴】 | 【仕様】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● フォトマスクなしで基板への直接転写可能 ● フィールドサイズの制限なし | <ul style="list-style-type: none"> ● 解像性能: 1µm to 5µm ● Overlay: ±0.35µm ● 最大基板サイズ: 510mm×515mm |

ウシオの露光装置ラインアップ

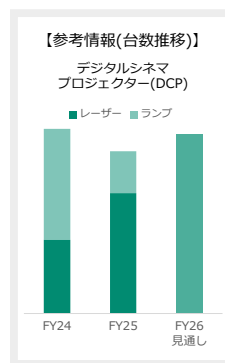


Visual Imaging事業に関わる参考情報

■光源別シネマスクリーン数及び総数の推移予想



出所：ウシオ社内調査（2025年）



Visual Imaging事業に関わる参考情報

■ 一般映像の事例紹介

世界のさまざまなシーンで革新的な映像体験に貢献

米国

ChristieのProAVプロジェクター及びLEDビデオウォールは、米国のUniversal Destinations & Experiencesのテーマパーク(Epic Universe、Universal Studios Hollywood、Universal Orlando Resort)に採用されています。これらの製品は、ダークライド、プレショー、待機列向けエンターテインメント、特別イベント演出など、色の再現性、総合的な映像品質、1日16時間・通年稼働を支える信頼性が求められる場面で活躍しています。

*中国のUniversal Beijing Resortや日本のUniversal Studios Japanでも採用されています

CHRISTIE

The official projection systems provider for Universal Orlando Resort™ & Universal Studios Hollywood™



【参考情報(台数推移)】

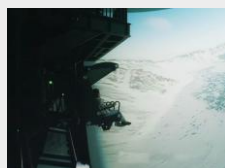
一般映像向けプロジェクター



中国

ChristieのGriffyn® 4K50-RGBピュアレーザープロジェクターは、ユネスコ世界遺産をテーマにしたアトラクション「Flying By Chang Bai Mountain」に採用され、高輝度で没入感のある映像体験を実現しています。

また、吉林省のChangbai Mountain Performing Arts Centerにも、ChristieのProAVプロジェクターが複数台導入されています。



Christieの映像ソリューションを支える主要製品と全世界で採用される理由

3DLP Projector



MicroTiles LED



主な特徴と優位性

シネマスクリーンから大型施設向けProAVまで、卓越した映像性能を実現

- **業界をリードする映像性能**：ネイティブ4K、広色域(P3/Rec. 2020)、高輝度出力により、優れた色再現性、明るさ、コントラストを実現。プレミアムな映像体験を提供
- **統合ソフトウェアと自動化による導入効率の向上**：高度なワーピング、ブレンド、自動アライメント、再キャリブレーション、モニタリング・制御ツールにより、複数台のプロジェクターを使用する環境でも、迅速な導入と安定した映像品質を実現
- **エンドツーエンドのソリューションパートナー**：長年にわたるグローバルでの導入実績と専門知見を活かし、設計段階から導入、運用後のサポートまで、ライフサイクル全体を通じて支援
- **大規模用途で実証された性能**：シネマコンプレックスからプロジェクションマッピング、アリーナ、ミュージアムまで、幅広い用途で安定した性能を発揮
- **TCO*の低減に貢献**：省電力性に優れたレーザープラットフォームとソフトウェア主導のアップグレードにより、性能向上を図りながら、消費電力の低減とレーザー光源の長寿命化を実現

*TCO: Total cost of ownership

複雑なカスタム環境にも柔軟に対応

モジュール構造により、シームレスなスケール拡張、曲面構成、視野範囲のカスタマイズが可能。シミュレーションドームから大規模な没入型体験まで、幅広い用途に対応

高い没入感を実現する映像性能

優れたコントラスト、暗部表現、低遅延性能により、トレーニング、シミュレーション、体験型アプリケーションにおいて重要となるリアルな映像表現を実現

効率性と信頼性を両立

フリップチップ、コモンカソードなどの先進的なLED設計により、消費電力、発熱、メンテナンス負荷を低減し、システムのライフサイクル全体におけるTCOの低減に貢献。Christie史上最高水準のエネルギー効率を実現

事業セグメントと主な製品

USHIO

事業セグメント	主要事業・製品	製品例				
Industrial Process	<p>光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他</p> <p>装置： 露光装置、キュア装置、保守メンテナンスサービス他</p>	 露光用ランプ	 OA用ランプ	 エキシマランプ	 ステッパ露光装置	 DI露光装置
Visual Imaging	<p>光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他</p> <p>装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他</p>	 シネマ用ランプ	 データプロジェクター用ランプ	 デジタルシネマプロジェクター	 一般映像用プロジェクター	 ディスプレイLEDウォール  映像周辺機器
Life Science	<p>光源： Care222[®]搭載モジュール他</p> <p>装置： 紫外線治療機器他</p>	 抗ウイルス・除菌技術 Care222 [®] 搭載モジュール	 紫外線治療機器 「セラビーム [®] 」シリーズ			
Photonics Solution	<p>光源： 固体光源</p>	 固体光源 (LD/LED)	 レーザーモジュール			

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 45

四半期推移《損益》

USHIO

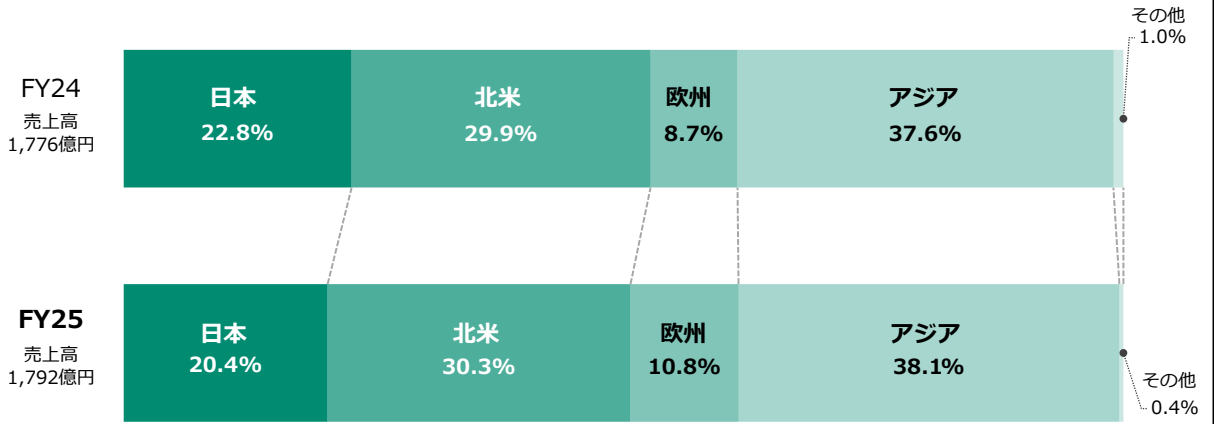
単位：億円	2024年度				2025年度				前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減額	増減率
売上高	375	481	424	495	383	430	455	522	+27	+5.5%
営業利益	3	39	31	14	9	30	37	42	+27	+195.3%
営業利益率	0.9%	8.2%	7.4%	2.9%	2.5%	7.1%	8.2%	8.1%	+5.2P	-
経常利益	14	39	50	19	16	34	38	44	+24	+124.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2	20	34	10	▲28	30	37	39	+29	+277.1%
EPS(円)	2.92	20.26	36.07	11.56	▲32.06	35.72	46.08	49.08	+37.52	+324.7%
為替レート (円)	USD	155	153	149	154	145	147	153	+1	-
	EUR	167	166	162	160	163	171	178	+24	-

Copyright © 2026 Ushio Inc., All Rights Reserved 46

四半期推移《セグメント別損益》

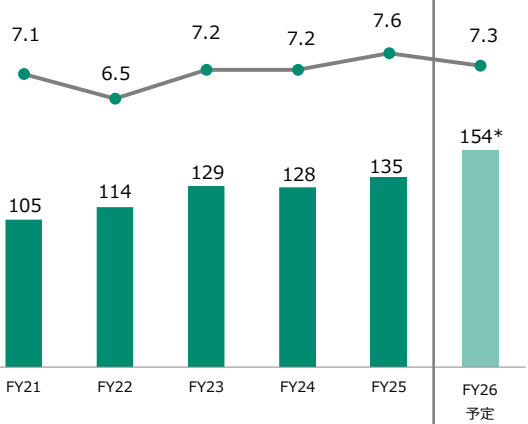
	単位：億円	2024年度				2025年度				前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	155	220	170	243	158	186	185	241	▲1	▲0.5%
	営業利益	10	41	18	25	3	17	17	26	+1	+6.0%
	営業利益率	6.7%	19.1%	10.9%	10.4%	2.1%	9.2%	9.5%	11.1%	+0.7P	-
Visual Imaging	売上高	175	216	211	205	183	197	225	233	+27	+13.6%
	営業利益	▲4	3	15	▲7	3	14	17	10	+18	-
	営業利益率	▲2.7%	1.6%	7.5%	▲3.5%	1.9%	7.4%	7.8%	4.7%	+8.3P	-
Life Science	売上高	15	15	14	16	15	16	14	15	▲0	▲6.1%
	営業利益	▲1	▲3	▲2	▲2	1	0	0	▲0	+2	-
	営業利益率	▲11.1%	▲25.4%	▲16.7%	▲17.6%	7.2%	3.3%	2.8%	▲4.6%	+13.0P	-
Photonics Solution	売上高	25	25	24	26	23	26	27	29	+2	+8.0%
	営業利益	▲0	▲2	▲0	▲0	2	▲1	1	3	+4	-
	営業利益率	▲2.3%	▲8.6%	▲2.0%	▲3.1%	9.8%	▲5.3%	5.9%	11.0%	+14.1P	-
その他	売上高	2	3	3	3	3	3	3	3	▲0	▲9.6%
	営業利益	0	0	▲0	0	▲0	▲0	0	2	+1	+307.7%
	営業利益率	1.1%	8.8%	▲0.6%	13.2%	▲7.3%	▲6.4%	5.8%	59.7%	+46.5P	-
連結合計	売上高	375	481	424	495	383	430	455	522	+27	+5.5%
	営業利益	3	39	31	14	9	30	37	42	+27	+195.3%
	営業利益率	0.9%	8.2%	7.4%	2.9%	2.5%	7.1%	8.2%	8.1%	+5.2P	-

地域別売上高比率



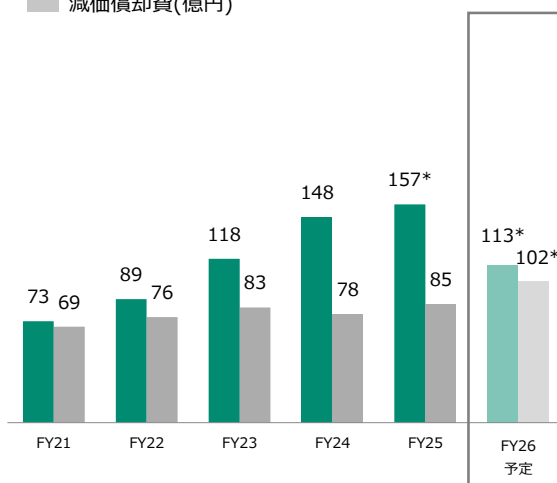
研究開発費／設備投資額・減価償却費

■ 研究開発費(億円)
 — 売上高研究開発費率(%)



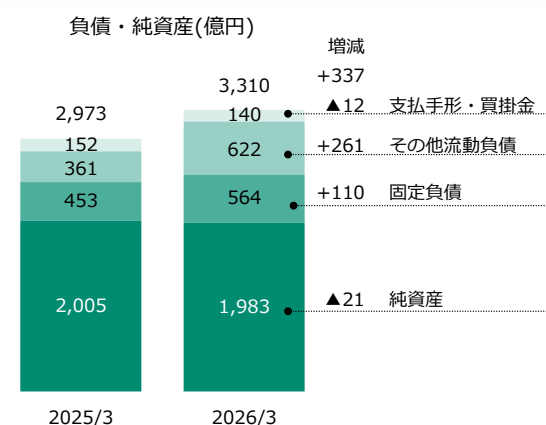
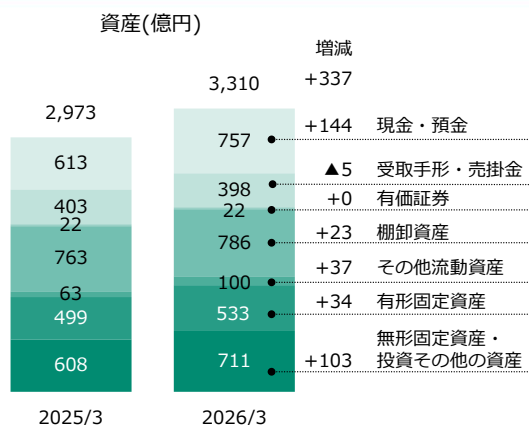
*OSRAM事業買収に伴う増加分を含む

■ 設備投資額(億円)
 ■ 減価償却費(億円)



*OSRAM事業買収に伴う増加分を含む

貸借対照表



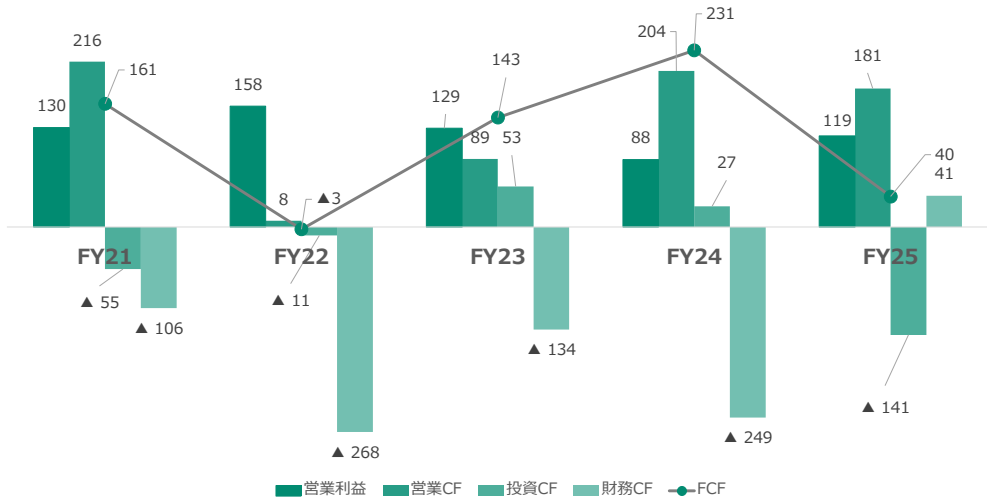
回転月数(ヶ月)	2025/03	2026/03
売上債権	2.7	2.7
棚卸資産	5.7	5.2
CCC	7.1	6.9

参考：2026/3にはOSRAM事業買取に伴う受入資産(155億円*)及び負債(58億円*)のれん(64億円)が含まれます *企業結合日時点の受入資産

自己資本比率(%)	2025/03	2026/03
	67.4	59.9

キャッシュフロー推移

単位：億円



■事業セグメント関連

IP事業	IP business	Industrial Process事業
VI事業	VI business	Visual Imaging事業
LS事業	LS business	Life Science事業
PHS事業	PHS business	Photonics Solution事業

■その他

AI	Artificial Intelligence	人工知能
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
DLT	Digital Lithography Technology	デジタルリソグラフィ技術
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
半導体アドバンスドパッケージ (半導体ADP)	Advanced Packaging (ADP)	チップレットをはじめとする半導体の2xD、3D化に対応する最先端の パッケージ分野

IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」では、様々なIR情報を掲載しております。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しております。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報

統合報告書
(Ushio Report 2025)

「大和インターネットIR表彰2025」
「優秀賞」受賞



「2025年度 全上場企業ホームページ
充実度ランキング」
「総合部門 最優秀サイト」選定



「Gomez IRサイトランキング2025」
「銅賞」受賞

IRメール配信サービス
ご登録はこちら



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

ウシオ電機株式会社

IR室

(03) 5657-1007

ir@ushio.co.jp

<http://www.ushio.co.jp/jp/ir>